

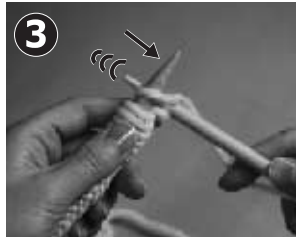
□ 表編(表目)の編み方



右端の作り目の左側から、右手の針を上に向かってさし込みます。



毛糸玉につながっている糸を針の向こう側にもっていき、右手の針にかけます。このとき、右手の針は一時的に左手にあずけます。



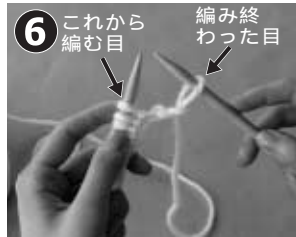
糸をかけたまま右の針を下へ引きます。



かけた糸を右の針で作り目から引き抜きます。



編み終わった目を、左の針からはずしません。



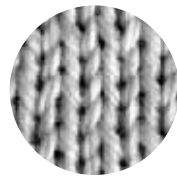
ひと目編めた状態。



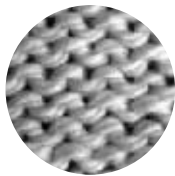
一段を全て表編した状態。

編んだ目を針先ではなく軸まで移動させましょう。軸の太さで編み目の大きさがそろい、きれいな編み地になります。裏目も同様です。

「表編」を裏から見ると「裏編」
「裏編」を裏から見ると「表編」になります。
(P.5の2-3の図参照)

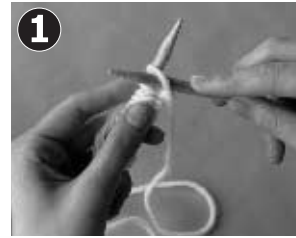


□ 表編
(表目の記号)

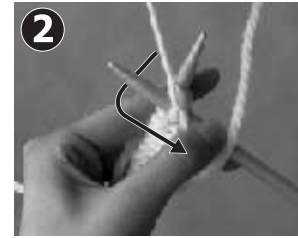


□ 裏編
(裏目の記号)

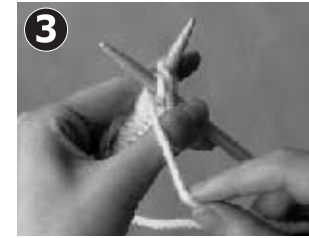
□ 裏編(裏目)の編み方



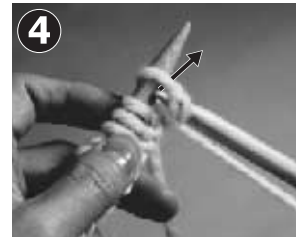
右端の作り目の右側から、右手の針を上に向かってさし込みます。



毛糸玉につながっている糸を針の手前にもってきて、右手の針にかけます。このとき、右手の針は一時的に左手にあずけます。



糸をかけた状態。



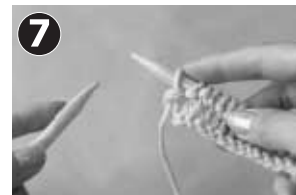
かけた糸を作り目の輪から引き抜きます。



左の針から編み終わった目をはずしません。

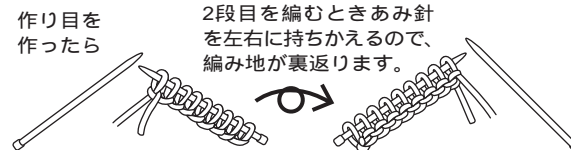


ひと目編めた状態。



一段を全て裏編した状態。

一般的な編み図では、表から見た目の記号を表記しています。裏面を自分の方に向けて編む場合は、編み目も編み図に表記されているものとは逆に編みます。



だから、
2段目を編むときあみ針を左右に持ちかえるので、編み目が裏返ります。
□ 表目は □ 裏目に、
□ 裏目は □ 表目に、
頭の中で変換して編みます。